

# 神奈川県地学会「オンライン気象講演会」のご案内

今日問題となっている地球温暖化ですが、温室効果ガスの発見から、どのような観測、計算過程を経て問題が明らかになってきたのかは、意外に知る機会はありません。また、気候変動やヒートアイランド現象との違いは、どのように理解すればよいでしょうか。今回は温暖化問題に早い段階から取り組まれてこられてきた横浜国立大学ご出身で元筑波大学教授、NPO 法人シティ・ウォッチ・スクエア理事長の 林 陽生氏に詳しくお話していただきます。

講演主題：「気候変動と災害－地球温暖化を背景として」

日時：2022年 3月6日(日)14:00～15:45 (入室は 13:30 から)

講師：NPO 法人シティ・ウォッチ・スクエア理事長

林 陽生 (はやし ようせい) 氏



○開催方法：Zoom による同時双方向方式

(講演内容の録画記録・Zoom 情報拡散は禁止します。)

○対象：会員(定員に余裕のある場合、非会員も受け付けます)

○定員：100名(事前受付・先着順) 参加費：無料

○申込み：次の [Google フォーム](#)からお申し込みください。

[参加申込みフォーム](#)

・申込みをいただいたメールアドレスに、即日 Zoom 情報を返信いたします。

・そのズーム情報を保存して、当日ご参加ください。

・Zoom 画面の参加者名をわかるように明記してください。

○締切り：定員になり次第締め切ります。

○問い合わせ等は、神奈川県地学会ホームページ「[コンタクトフォーム](#)」から [神奈川県地学会HP](#)

## 【講演要旨】

今や環境が大きく変動し、私たちの生活に様々な影響が及ぶ時代、すなわち「地球温暖化時代」になった。地球温暖化の実態解明の過程を見ると、19世紀末の温室効果ガスの発見、20世紀中頃以降に精力的に行われた気象観値の質的管理手法の開発および全球年平均気温の計算方法の確立、さらに少し遅れて始まった大気中温室効果ガス濃度観測の展開の順番で新たな事実が積み上げられ、総合的な理解に至った。興味あるのは、実証と定義の獲得に時間を費やした点である。この意味で、真に理解されたのは意外に最近のことと言えるかも知れない。

講演では、最初にこの点について触れ、「気候変動」と異なる出自の用語であることを解説する。続いて、気温上昇という点では同一のヒートアイランドとの違い、歴史時代・地質時代の気候変動との違いについて述べる。最後に、温暖化と災害の頻発、地球温暖化影響の適応策などについて、演者が関わってきた視座から議論する。

## 【講師：林 陽生氏プロフィール】

1971年：横浜国立大学教育学部卒業、筑波大学にて理学博士を取得、同大学地球科学研究科助手を経て農林水産省農業環境技術研究所環境研究部長、筑波大学生命環境科学研究科教授となり、2011年同退職。その間、ニュージーランド CRI 客員研究員、UNFCCC エキスパート、環境省 LULUCF タスクフォース委員、総合科学技術会議温暖化研究イニシアチブ運営会議委員ほかを兼務。その後、NPO 法人を設立し、幅広く環境問題に取り組む現在に至る。藤沢市出身。